

S S T L

NO. 52 2017. 1. 18

職場参加ニュース

共に暮らしかう街づくりへ 交流と連携進む



明けましておめでとうございます。今年は当会が新たな一歩を踏み出す年になるでしょう。その布石が年末の二つの取組でした。

左の写真は 12.15 Lunch Café どっこいしょ。キッチンとまとはか仕事おこし懇談会 in こしがやの皆さんやフードバンク埼玉中央のご協力で開催。あちこちでPRした結果、多彩な顔ぶれが交流しました。

下の写真は 12.18 共に働く街を創るつどい 2016。NPO 法人やまぼうしの街づくりに学びつつ、「共に働いて地域を耕す」と題し当会の足元で食や農を切り口に地域を耕す事業体の現状や働く障害者の思い、重度障害者も共に生きる街づくり等をつきあわせました。

なお、この二つの取組に、生活クラブ生協越谷ブロックの方々に参加され、今後の連携を探りました。



NPO 法人やまぼうし伊藤理事長は、津久井やまゆり園での殺傷事件にふれ、障害者も一人の市民として役割をもって生きる地域への再生を語りました。会場にかけて入所施設の中から地域で生きたいと闘って道を切り拓いた三井絹子さんがおられ、エール。近年、障害者雇用も障害福祉サービスも大きく伸びている半面で、障害の種別・程度によって細かく世界が分けられ、障害のある人となない人が制度の境界を越え、日常の中でつきあう機会が失われつつあります。そのためにさらに支援が必要になる…さらに日常のつきあいが減る…という悪循環を断つためにも、Lunch Café どっこいしょやこのつどいのような地域の取組をさらに広げてゆく必要を実感しました。

共に働いて地域を耕すーその流儀重ねて



伊藤勲さん(やまぼうし理事長)

津久井やまゆり園事件の衝撃を受け、あらためて30数年前、入所施設の重度障害者たちの地域で働きたい!地域で暮らしたい!との思いを受けて地域に創業した「おちかわ屋」をふりかえった。そこから地域居住を開始した

が、地域を変えなければ「より良い施設づくり」に終わってしまう。障害者が共に生き、共に働く街づくりの主役に、また市民みんなが当事者にと市民自治型福祉をめざした。当事者目線で地域カルテを創る、地域の可能性を再発見するというので、限界商店・団地・学校・農地再生の道を拓いてきた。

廃校になった小学校を健康・市民支援センターにする計画の中で、元給食調理室を用いて配食サービス・カフェレストラン事業を行い障害者就労支援事業を進めた。多摩の大学では産学民のプラットフォームの形成をめざし、三つの大学でカフェを担う。これらを含め、コミュニティビジネスの手法を取り入れた農・福・商・工のネットワーク事業としてスローワールド事業を展開中。50年後の日野を誰もが住みやすい地域へとめざし、重度障害者も包み込む暮らしと仕事の創造を進めている。



野村康晴さん(働く障害者)

作業所での一般就労をイメージした施設外就労を契機に、家から近い職場に就職。景気悪化、時短など環境変化でパニックになって辞めた。その後就労支援センターと出会い、現在はドラッグストアで働く。働く上で、障害あるなしに関らず、さまざまな人との関係が支えになると実感している。



天野美和さん(働く障害者)

精神医療を利用しつつダブルワークまでしている。他者に自らをひらくことの大切さを経験し、周りにも発信している。社会に出ることで、病気になる前は見えしてい

なかった自分の立ち位置が見えるようになった。ただ社会にはまだまだ壁がある。国は与えるだけ。病院はOTやデイケア等の場を提供するだけ。医者は薬を出すだけ。このトライアングルが壁。外に出て近所の人に挨拶したり家の周りを掃いたりしていれば、調子が悪くなって奇声を上げて悪くは言われな

パネルディスカッション



須長こうさん(キッチンとまと)

企業組合キッチンとまとでは、女性も男性も高齢になっても働ける場として、地場産の食材による弁当を社会的弱者といわれる人々に届ける事業をしている。外国産の安い食材が流通し競争力を問われいったん閉店したが、市の空き店舗の利用・助成事業により再開。環境問題を通し、行政との連携もあり越谷・水辺の市を呼びかけ展開中。



山田浩嗣さん(ひよせ職員)

ワーカーズコープの就労B型ひよせの農業担当職員。かつて知的障害者入所施設の指導員で畑をやっていた時、将来障害者と共に農業をやって生きていけたらと思っていた。作物が思い通りに育つわけではなく、病気になってもバラツキがあったりすることが厳しくもあり面白くもある。悩みが多いが地域の農業の達人に相談するとずっと答えてくれる、そんなネットワークが大事。(ひよせ小野所長「農業は地域の課題をとりあげて仕事を起こしてゆくきっかけづくり。街の中でひきこもっている人たちの就労支援も視野に入れたい」)



藤崎稔さん(つぐみ共生会理事)

社会福祉法人つぐみ共生会の理事のほか、生活困窮者支援をしているNPO法人ほっとプラスの理事もしている。つぐみは鳥の名でなく越谷弁で「坐る」。学校に行けず、大人になっても農家の奥に座ったまま綿繰りなどして暮らしてきた重度障害者たちのこと。彼女たちがわらじの会で一緒に街に出る中で社会福祉法人を作った。



内藤純さん(同本部職員)

社会福祉法人つぐみ共生会の本部職員。農家の奥にいた重度障害者たちを介助してきた父親が倒れる寸前に、力を振り絞って建てた家で彼女たちのここで生き続けたいという思いを実現するため、藤崎さんはじめ3人の障害者仲間を呼び込み生活ホーム制度に乗せることで、世話人を確保した。それを機に藤崎さんの独立して生きたいとの思いも叶えられた。追い詰められた本人、親きょうだいの破れかぶれで周りを引きずり込む力が制度を生かし、創ってきた。その中でくらしセンターベシみもでき、「授産」を地域を耕す活動にと「職場参加」に取り組んだ。

共に働いて地域を耕す—その流儀重ねて



伊藤勲さん： 越谷のみなさんの話を聞いて

各自がギリギリのところまで明日生き延びるために、しかしプライドをもって切り拓いてきたシナリオとして聞いていた。いま、国が「共生社会」を急に言い出しているが逆に考えればそれだけ共生できてないということ。特に「互助」を打ち出しているが、「互助」が増せばそれだけ必要な「公助」は担保されるべきだ。また、農と食の問題は、自然との共生として、「雑草」とされるいのちも含めて地球環境を守る中で安心して暮らせるコミュニティをつくってゆく中で、障害者も役割を担ってゆく必要がある。越谷のさまざまな取り組みを知り、全体としてはつながっていると感じた。



三井絹子さん：参加者として

会場からの発言。指で書いた文字を介助者がメモし読み上げました。「『共に働く街を創るつどい2016—共に働いて地域を耕す』、とてもすばらしいと思います。10数年前、この志で長崎で障害者と共に生きることをやってた園長先生がいました。また2、3年たってその人を訪ねていきました。しかしその場所には一人も姿はなくなり、建物もなくなってしまっていました。周りの人にたずねると、園長さんが年を取って畑も出来なくなり、障害者もみんな施設や病院に入ってしまった。私は聞いたとき愕然としました。地域で生きることをどこまでできるか挑戦してください。死ぬまで逃げないで。」



コメンテーター：角屋亮さん (越谷市障害福祉課副課長)

地域を考えると、そこには障害者がいて高齢者がいて子供がいて、生活困窮者がいる。ただ行政マンとしてわれわれが一生懸命仕事すればするほど自分の担当分野に特化した制度を考えてしまう。縦に割っていろいろな制度を一生懸命考えることで、地域の横のつながりを骨抜きにしてしまう。農福連携に関する国のHPを見たが、農業者と障害者の話だけ。そこに生活困窮者、高齢者がからんでもいい話なのだが、支援制度、補助金が絡むと地域の中のある人だけしか見えなくなる。空の上から地域を見下ろして、どんな人がいるかを大きな面で見ただで自分の担当分野がどうあるべきかを考えることが必要。私ごときの関わりで変わるものでもないが、こういうイベントに出させてもらって考えさせられるところだ。



コーディネーターまとめ： 朝日雅也さん

(埼玉県立大学教授)

いま三井さんから今回のまとめになるような言葉をいただいた。いろんな仕組みやシステムができてくると、結果、分断化したり効率化が求められたりして、本来その地域で持っていた力が発揮しにくい状況になるが、今日のように歴史を振り返り、変わらぬ信念を再確認し、今後の方向性を語ってゆくことが連帯につながる。



伊藤勲さん：会場で歴史的再会を果たせた

今日この会場で三井絹子さんに会えてよかった。国立で講演会やるから来てということ、ワンステップかたつむりの劇を日野に招んでほしいと言われた。

1973年、臨床心理学会の「教育現場を締め出された子どもたち」のシンポで発言者になり七生福祉園の入所者の話をしたら、講師控室に来て施設職員が何を言っている、私たちの状況をどう思ってるんだと糾弾された。それがこの道に入るきっかけになった。



三井絹子さん略歴

1945年に疎開先の埼玉で生まれる。二〇歳で施設に入所。非人間的扱いをする施設に怒りを感じ、一年九ヵ月都庁前座り込みをした後、地域へ。かたつむりの会をつくり同時にかたつむりの家で自立支援を始める。今まで一〇〇人近くの人がかたつむりの家で自立し地域へ出ている。しょうがいしゃが地域で生き続けられるように、国、都、市に命懸けの交渉を続けている

共に働く街を拓くための自治体提言2016(要約)

当会の日常の取組と「共に働く街を創るつどい2016」の成果を踏まえ、近隣自治体首長を訪問し、下記の趣旨で提言を行うために日程調整を行っています。以下は要約です。

① 地域の学校での支援はナチュラルサポートを基本に

障害のある子どもをクラス、学校の欠かせない一員として受け止め、保護者の付き添いを条件にしたり、支援員まかせにせず、子ども達が共に学び育つことを基本に据えた支援(ナチュラルサポート)を基本とすることを提言します。学校でのこうした経験の積み重ねが、地域・職場でのナチュラルサポートの基礎となります。

② 職員採用試験・合理的配慮の見直しと新たな役務開発の両面から共に働く市役所を

民間のモデルとなる障害者雇用を進めるべき市として、制限的な受験資格や条件設定を改めたり、ワークアシスタントの制度化等の検討を進める必要があります。

また、優先調達の一環として、市内の多様な障害者施設が分業して「協働受注」する形で、さまざまな障害者が市職員や街の人々の中で働く機会を拡げることが提言します。

③ ピアサポートによる就労・生活支援活動の育成・支援

障害の種別・程度・状況により世界が細かく分け隔てられる傾向が強まり、緊急対応が問題として浮上する状況が深まっています。こうしたサイクルに対して、ピアサポートによる就労・生活支援活動を育成・支援されるよう提言します。

④ 介護人派遣事業の普及啓発と拡充

全身性障害者介護人派遣事業は、障害のある人や家族自らが周りの人々とつきあいを深めることを通して社会参加のための介護を共に創る制度であり、共に生きる街づくりの基盤強化のためにこの制度の普及啓発を進める必要があります。越谷市ではさらに知的障害者介護人派遣事業も実施しており、他自治体においてもこの制度の実施と普及啓発が必要です。

⑤ 働きづらさ・生きづらさを抱える人々が共に働く事業所づくりの支援

かつて経済効率が優先され、自然の生態系や地域の暮らしに根ざしたさまざまな働き方・暮らし方が崩れてきました。その過程への反省を踏まえ、高齢者、生活困窮者、主婦などの働きづらさ・生きづらさを抱える人々自らが、食と農、子育て、介護等を切り口として共に働く事業所の立ち上げや継続した運営のための多角的な支援策を検討されるよう提言します。

⑥ 貴市の諸計画に反映させること

上記の事項に関し、貴市において障害福祉計画や障害者計画、高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画、次世代育成支援行動計画、教育振興基本計画、地域福祉計画、総合振興計画等の見直し時に、反映させられるよう提言します。これらの計画が支援の対象者のみを当事者に位置づけ、その枠組みの中だけで自己完結しないよう、すべての市民がこれらの事項の当事者であることを認識できるよう、関連計画への取り込みを強く期待します。

職場・地域ひろがり つつしん

春に向け 1880株花苗みんなで



当会が公益財団法人埼玉県公園緑地協会から年間を通して業務を受託している県営しらこぼと水上公園の花壇で、11月いっぱいかけてパンジー、ビオラの花苗1880株の植え付け作業を行いました。11月に参加した障害者は延べ78人、支援者は41人でした。参加施設は当会のほか、院内デイケア1、生活介護6、就労B型2、就労A型1でした。

当会は、9時から「作業見本園」を作り、車で10時頃到着する各施設の利用者・職員が一目でその日の作業工程を見て取れるようにしておくなど、チームプレイで無事完了！

こしがや産業フェスタ 2016



11月26、27日、市内の商業・工業・農業が一堂に会する越谷市の一大産業イベントと銘打たれた産業フェスタに今年も当会のブースをもって参加しました。厚岸漁協直送の極上昆布は完売でした。

惜しいのは、障害者関係や福祉関係、生協などの事業所の参加があまり見られないこと。国は「共生社会」を打ち出していますが、地域ではむしろ心の壁が増している感もあります。今後、PR や参加条件の工夫も含めて、住民の暮らしに密着したさまざまな事業所が参加するイベントになればいいですね。

子ども商店街にゲーム屋で参加



12月3日、仕事おこし懇談会仲間のNPO法人ファミリーリンク越谷主催の一日子ども商店街が蒲生で開かれました。その名の通り子どもたちが店長を務めるのですが、店長枠200名に応募者が250名あったほどの人気だそうです。当会からも世一緒の障害者スタッフKさん(写真中央)がYさんのサポートを得て、ゲームの店を出し、子どもたちに店長を務めてもらい、大好評でした。

水辺の市出店者忘年会開かれる



毎月第2火曜に越谷市役所東の葛西用水ウッドデッキで開かれている水辺の市の出店者同士の初の忘年会が、12月6日に開かれました。高層マンション最上階の夜景を楽しみ、キッチンとまとの料理とお酒で、濃い情報交換ができました。

今年もよろしくお願いします



会社帰りに世一緒に立ち寄ったKさんとMさん。木曜16:00~19:00のたそがれ世一緒以外でも、立ち寄りが増えています。お気軽においでください。

世一緒NOW

よいしょ ナウ

職場参加ビューロー・世一緒ネット通信 2号

ごあいさつ

今年も暮れてゆきますね。この世一緒NOWでつながっているひとりひとりの縁を大切にしながら、新しい年に向かってまた歩き始めたいと思います。

世一緒NOWは、前に世一緒に見えた方、主にグループワークにエントリーされた方だけにお送りしています。世一緒を運営するNPO法人障害者の職場参加をすすめる会では別に職場参加ニュースという会報を約500部出しています。世一緒NOWはいわば同窓会の会報ですので限定150部ほどです。

職場、施設、アパート、家庭…あちこちに分かれたみんなの近況と情報交換、そして世一緒の最新情報がつまった世一緒NOWを、これからもよろしく願います。

そして、ぜひおたよりを送ってください。



市民団体のみなさんにお手伝いいただき一日食堂「どっこいしょ」を世一緒で聞いたときのぞわいです



じごう 次号につづく

2017年1月～3月 カレンダー

NPO法人障害者の職場参加をすすめる会

1月			2月			3月		
日	日中行事	ほか	日	日中行事	ほか	日	日中行事	ほか
1日	日		1日	木	当番会議	1日	水	当番会議
2日	月		2日	木	革工芸	2日	木	革工芸
3日	火		3日	金	ポストイング	3日	金	たそがれ
4日	水		4日	土		4日	土	
5日	木	生活クラブ地域協議会	5日	日		5日	日	
6日	金		6日	月	求人広告チェック	6日	月	求人広告チェック
7日	土	どうよ世一緒	7日	火		7日	火	
8日	日	べしもちつき交流会	8日	水	職場参加を語る会	8日	水	
9日	月		9日	木	革工芸	9日	木	革工芸
10日	火	越谷水辺の市	10日	金	TOKOニおしゃべり会	10日	金	TOKOニおしゃべり会
11日	水	当番会議	11日	土		11日	土	
12日	木	革工芸	12日	日		12日	日	
13日	金	TOKOニおしゃべり会	13日	月	求人広告チェック	13日	月	求人広告チェック
14日	土		14日	火	越谷水辺の市	14日	火	越谷水辺の市
15日	日		15日	水	職場参加を語る会	15日	水	職場参加を語る会
16日	月	生活クラブ地域協議会	16日	木	革工芸	16日	木	革工芸
17日	火	生活クラブ地域協議会	17日	金	ポストイング	17日	金	たそがれ
18日	水	職場参加を語る会	18日	土	どうよ世一緒	18日	土	どうよ世一緒
19日	木	革工芸	19日	日		19日	日	
20日	金	政治参加ネット来所	20日	月	求人広告チェック	20日	月	求人広告チェック
21日	土		21日	火		21日	火	
22日	日		22日	水	ピアサポート研究会	22日	水	
23日	月	求人広告チェック	23日	木	革工芸	23日	木	革工芸
24日	火		24日	金		24日	金	
25日	水	ピアサポート研究会	25日	土		25日	土	
26日	木	革工芸	26日	日		26日	日	
27日	金	WAM助成金締切	27日	月	求人広告	27日	月	求人広告
28日	土	協働フェスタ	28日	火		28日	火	
29日	日					29日	水	
30日	月	水と公園共同作業				30日	木	革工芸
31日	火					31日	金	

○予定は変わったり、追加されたりします。参加する前に念のためにお電話くださると最新情報が確認できます。
○このほかに、生活クラブ生協地域協議会(生協・市民ネット・ワーコレ)との共催で行う障害者介護人養成研修の予定が入ってきます。
○春日部、越谷、草加各市の市長さんへの「提言」も、この期間に行います。調整中です。

2017年1月～3月 カレンダー

NPO法人障害者の職場参加をすすめる会

1月			2月			3月		
日	日中行事	ほか	日	日中行事	ほか	日	日中行事	ほか
1日			1日	水		1日	水	
2日			2日	木	当番会議	2日	木	当番会議
3日			3日	金	たそがれ	3日	金	たそがれ
4日			4日	土	水上公園予備日	4日	土	
5日			5日	日	共に生きる福祉講座	5日	日	障害者制度改革推進セミナー
6日			6日	月	求人広告チェック会	6日	月	求人広告チェック会
7日	どよう世一精	べしみもちつき交流会	7日	火		7日	火	
8日			8日	水	職場参加を語る会	8日	水	
9日			9日	木	春日部市長へ提言	9日	木	革工芸
10日	越谷水辺の市		10日	金	たそがれ	10日	金	たそがれ
11日	当番会議		11日	土	TOKO3ニおしやべり 生活ホーム懇話会	11日	土	どよう世一精
12日	革工芸	たそがれ	12日	日	CILわらじ教室	12日	日	
13日		TOKO3ニおしやべり会	13日	月	求人広告チェック会	13日	月	求人広告チェック会
14日			14日	火	越谷水辺の市	14日	火	越谷水辺の市
15日			15日	水	職場参加を語る会	15日	水	職場参加を語る会
16日	生活館連携現場見学		16日	木	革工芸	16日	木	革工芸
17日			17日	金	107の会	17日	金	たそがれ
18日	職場参加を語る会	共同受注部会	18日	土	どよう世一精	18日	土	
19日	革工芸、浄水場	たそがれ	19日	日		19日	日	子ども夢未来フェスティバル
20日	政治参加ネット集所		20日	月	つぐみ共生会 理事会 新職員会	20日	月	つぐみ共生会 理事会 新職員会
21日			21日	火		21日	火	
22日			22日	水	ピアサポート研究会	22日	水	花壇整備技術講習会@水上公園
23日	求人広告チェック会		23日	木	たそがれ	23日	木	革工芸
24日			24日	金		24日	金	たそがれ
25日	ピアサポート研究会	ボスティング	25日	土	みんな一緒だおしやべり会	25日	土	みんな一緒だおしやべり会
26日	革工芸	たそがれ	26日	日	着物市(べしみ〜28日)	26日	日	ゆめ風来六輪道神コンサートの春日部
27日	WAM助成金締切	協働フェスタ準備	27日	月	求人広告、野炊販売	27日	月	求人広告チェック会
28日	協働フェスタ		28日	火		28日	火	
29日			29日	水		29日	水	ピアサポート研究会
30日	水上公園共同作業	ボスティング	30日	木		30日	木	革工芸、野菜販売
31日			31日	金		31日	金	

○予定は変わったり、追加されたりします。参加する前に念のためにお電話くださると最新情報が確認できます。
○このほかに、生活クラブ生協地域協議会(生協・市民ネットワーク)との共催で行う障害者介護人養成研修の予定なども入ってきます。
○世一精の活動はいつでも、だれでも参加できます。ただ食事等が出る行事のときはあらかじめご連絡ください。

世一緒スタッフ日記



世一緒では、障害や病気その他の状況による働きづらさを、他の人々と共有し、よりよく生きるために、世一緒に関わっている人たちを「スタッフ」と呼んでいます。世一緒は専門家が障害者を指導・訓練する場ではありません。現に就労していたり、就労準備中であったり、離職後だったり、立場はさまざまながら、街の中でほかのみんなと一緒に生きてゆく道を探ることが世一緒の事業です。ポーター(非常勤やボランティア)の支えを受けて、世一緒の当番(ピアサポート実習)や「語る会」、身近な地域で必要とされる仕事(花壇整備、除草、ポステイング)のグループワーク、主婦や高齢者が地元の店や事業者と一緒に街にぎわいを創りだすための「水辺の市」の手伝いなどもしています。ここには元スタッフからの近況報告も紹介します。

就職に関する介護を支える

熊谷 健

僕は今福祉の勉強しています。就職する為がんばっています。僕は就職したいので施設を探しています。

今何をしたいのか考えています。

でも面接はうまく出来るか不安です。僕には知的障害持っていて働ける施設所に行つて見学や体験所に行つて「僕が出来るか」を考えてます。学校の先生が働ける所に探してもらえます。でも僕は働けられるか不安です。

面接が受からなかったら何度でもやれば受かるはずですよ。僕は迷わずに何度でも繰り返し練習すれば面接をうまく成功したら働けるようになった「社会人一年生」になります。

仕事をクビに

内藤 雄介

自分のミスでアイルビーバックがクビになりました。その原因は、自分のミスで他の仕事にまわったことに不満になり、仕事をやる気がなくなったことです。そして、不満が一気に出て、ついあばれてしまったことです。

越谷に住んでいます

柿沼 孝雄

お母さんと2人暮らし。お母さんの洗たくしたのを入れる。たたむ手伝いをしてる。

仕事は、昭和メタル・タイヤ屋さん。タイヤ磨いたりしてる。手がお仕事の手。

楽しいこと

世一緒にて皆で話すこと。

これから

柳沢 宏樹

自分ですが、十月末で会社を退職して、何か所か就労移行事業所を見学して、現在は一週間体験入所している吉川のひだまりで体験しています。内職作業したり、面接練習もしたりして勉強にはなります。

今後、ひだまりに通所する可能性も高いので毎週木曜のたそがれ世一緒は楽しみの一つになりそうです。

たまこ来て、います

きょうこ

私はメンタル面の心のやまいで、病院に通っています。デイケアの知り合いの紹介で世一緒を知り、初めて来るような気がしないデジャブで主治医を説得して通うようになりました。知り合いのおかげで、楽しくたまに通っています。

春日部イリスに行くこと

あらいりか

春日部のイリスに実習に行き始め、最初の一日目って2日目は実習を休んでしまいました。緊張して、精神の病気があるからか、いきませんでした。そして、次の日から又、ちゃんといくようになります。つづけて一週間いきました。

最後の実習のときは、はじめて、施設外にいき車で工場にいき、歯磨きの箱に両面テープをはる作業をしました。最初は注意をされてきました。やっとやっついていくうちに作業を覚えられました。イリスには、ばおであったことがありました。顔を知っていたのでびっくりしました。まだ、自身が少しないけど頑張りたいと思います。

NPO法人障害者の職場参加をすすめる会

当会はみなさまの会費と寄付金等により支えられています。どうぞ、ご協力をお願いします。

〒344-0023 埼玉県越谷市東越谷 1-1-7 須賀ビル 101 世一緒内 (ハローワーク斜向かい)

048-964-1819 (fax 共) shokuba@deluxe.ocn.ne.jp http://www5b.biglobe.ne.jp/~yellow/



二〇一六年十一月 日発行(毎月十二回 二と四と六と八の日) 通巻 第 号
一九九四年八月二十四日第三種郵便承認
発行人 埼玉県障害者団体定期刊行物協会 川口市元郷一・十一・十三 頒価二〇〇円